



令和3年12月 静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場ニュース

田牛地先の磯焼け調査

2017年8月に発生した黒潮大蛇行は現在も継続しています。伊豆半島では黒潮の大蛇行によりカジメの磯焼けが発生することが知られています。そこで、当场ではカジメ群落の状況を把握するための調査をしています。6月中旬と11月中旬に下田市田牛地先にて潜水調査を行いました。その結果、一部の漁場でカジメの磯焼けが発生していることがわかりました。磯焼けが発生した漁場では、6月時点では当歳株のカジメが多く着生していましたが、11月にはほとんどのカジメが藻食性魚類の食害を受けて、茎だけになっていました。また、まだ磯焼けが発生していない漁場でも、葉部がなくなったカジメが多く、多数の藻食性魚類がカジメを摂食する様子が確認され、このまま高水温や食害が続けば、磯焼けが発生が懸念されます。



↑磯焼けが発生した漁場(左：11月、右：6月)



↑藻食性魚類の群れ

↑代表的な藻食性魚類
(上：フダイ、下：アイゴ)

新たな定置経営モデル“BUZZ定置”

伊豆半島東岸で稼働する大型定置網は、地元及び県内外に水産物を供給する重要な漁業ですが、近年の漁獲量は減少傾向で推移しており、経営の安定化には漁獲量に左右されない収入源を確保する必要があります。そこで当场では、操業の見学やSNSによる情報発信を行って伊豆の定置網のファンを作り、そのファンに対して漁獲物をネット販売するなどして収入アップを図る経営モデル“BUZZ定置”を定置漁業者に提案し、その体制整備を進めています。伊東市富戸の定置網では、こうした取り組みの実施に向けて準備を進めており、当场はこれを支援すると共に、他の定置網にも普及を図る予定です。



←定置網漁獲物
ネット販売
(※イメージ)

漁業高等学園の来場

静岡県焼津市に県立漁業高等学園という学校があり、次代の漁業を担う生徒が日々勉強に励んでいます。11月10日に学園の生徒が施設見学のため当场を訪れました。当场職員から伊豆地域の漁業について説明を受けた後、試験研究のために近くの漁港に設置してある稚エビコレクターという装置から付着生物を採集する様子を見学しました。透明に透き通っている姿の稚エビが採集され、生徒たちは興味深く観察をしていました。今回を通して少しでも伊豆地域の漁業の理解が深まったのであれば幸いです。



↑稚エビコレクターによる
生物採集の見学



↑採集された稚エビ

12月の予定 ●テングサ潜水調査 ●静岡県漁業士会役員会(3日) ●令和3年度ブリ資源評価会議・研究機関会議(8日) ●下田高校チリモン研修(10日) ●キンメダイ資源評価担当者会議(13日) ●賀茂地区漁青連役員会(17日) ●長期漁海況予報会議(21~22日)

連絡先：静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話：0558-22-0835

アドレス：suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp ホームページ：https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu

当场には、自由に見学できる展示施設があります。皆様のお越しをお待ちしています。